

2018年4月1日(日)／説教者：神谷武宏

説教：「主はガリラヤへ」(イースター礼拝)

聖書：マルコによる福音書16:1～8

神の使いは空の墓の前で、《あの方は、あなたがたより先にガリラヤへ行かれる。かねて言われたとおり(マルコ 14:28)、そこでお目にかかれる》と告げる。ガリラヤとは以前イエスが宣教した場所であり、弟子たちや彼女たち(マグダラのマリアたち)の生活の場所であった。そこに主が先立ち、お目にかかれると言う。再び“ガリラヤへ”とはどういう意味なのか？

これまで弟子たちは、イエスとガリラヤで出会い弟子となり、共に福音宣教を担ってきた。そしていよいよ都エルサレムに入場した時、きっとイエスは、この宗教と経済の中心地であるエルサレムで、ご自身の力を発揮されて、栄光を掴み取って下さる。このエルサレムこそが、宣教のゴールと弟子たちは考えたはずである。しかし、ここに来てイエスの十字架という思いもよらない結末にどれほど落胆したことか。このゴールと思ったエルサレムが、実はそうではなかった。再び、ガリラヤへと告げられていく。

これは、ようするに振り出しに戻るという事である。もう一度ガリラヤに戻り、イエスが生き、教え、人々と共に歩み、神の国の希望を語られたあのガリラヤの地に帰れと言うこと。そしてイエスの言葉と御業を思い起こし、その歩みにならって歩みだしてみる。その歩みの中にこそ、復活のイエスは現れるであろうと言うこと。その歩みの中でこそ、殺されても決して死ぬことはない復活の命に触れ、あのイエスの命が今もなお生きて働いていることを経験するということ。マルコ福音書は、そういう復活のメッセージを私たちに残しているということであろうかと思う。

では、私たちのガリラヤとはどこなのか？それは特別などこかではなく、私たちの日常の中で、日々の暮らしの中で、イエスは先立ち、出会ってくださるということではないか。私たちの主イエスは、あの墓に大きな石で閉じ込めておくことが出来なかったのと同じように、どのような場においてもイエスは押しつけて先立ちてくださる。場所を越えて、時代を越えて、イエスは私たちよりも前に行かれるのである。

今一度、福音書に立ち返り、主がお会いした方々がどのような人々であったのか、イエスが語られた言葉は何であったのか、再びガリラヤへ立ち返り、御言葉に触れて行きたいものである。主の復活に感謝！！(神谷)